

# 海外出張報告

日本教職員バドミントン連盟理事長  
(公財) 日本バドミントン協会国際部長  
アジアバドミントン連盟副会長

高橋 英夫

私は去る2018年4月27～30日まで中国武漢市で開催されたアジア選手権に参加、そして5月16日～20日までタイ王国バンコク市で開催されたBWF総会、BadmintonAsia理事会、総会に出席してきました。今回は特にNEWスコアリングシステムその他BWF理事会より事前に提案のあった重要議題を討論、審議致しました。この一連の報告書については6月10日開催された(公財)日本バドミントン協会理事会において既に報告承認済みですので、ここにその概要をJEF会員の皆様にご報告申し上げます。

## アジアバドミントン選手権大会 中国武漢市にて

実は私は、この大会4年連続の参加となりました。しかも同国同市(中国・武漢)の開催でした。1年目に初めて武漢の国際空港に降り立った時、空港まで出迎えて頂いた武漢大学1年生のボランティアの女の子が、今年も4年生となってまた私を出迎えて頂いたことに深い感銘を受けました。確か、英米文学専攻だったと思います。中国の学生は大変勤勉で優しく、しかも予想以上に親日的でありました。この国際空港も昨年までの小さな粗末な国際空港から大変身し成田空港の何倍も大きい施設の整った大空港に様変わりしていました。GNP世界第2位の経済大国になったことを、身をもって実感した次第です。4月28日(土)の午前中にホテルでアジア連盟の理事による打ち合わせ(BWF総会対策)行った後、体育館に移動し、準決勝を観戦し、日本選手の大活躍に感激しました。翌日の決勝では皆様ご存知のように、男子単で桃田賢斗選手が中国のチェン・ロンを2-0で破り、日本人初のチャンピオンになりました。また女子複では日本人同士の戦いとなり激戦の末、福島・広田組が優勝致しました。私はこの表彰式のプレゼンターを務めさせて頂き、大変光栄に感じました。本当に日本人選手は強くなりました。立派です。



BadmintonAsia理事会・総会： 2018年5月17日(木)

B W F A G M (総会)： 2018年5月19日(土)

会 場： タイ王国バンコク市 セントラ・ワールドホテル会議室

下記に日本協会に提出した報告書を掲載致します。

#### NEWスコアリングシステムについて

BadmintonAsia理事会・総会では 5月16日午前10時開会

##### 1. 11点5ゲーム制の賛否

日本、マレーシア、韓国、インドネシアは現行システムを支持。  
アジア連盟は自主投票とする。

##### 2. サービスの1.15mの高さの固定について

サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体がコート面から1.15mより下になければならない。1.20mの案も含めて提案する。  
アジア連盟は殆ど賛成である。

##### 3. コーチのコーチングの制限について

タイムアウトの導入の賛否も含まれる。

コーチ席の撤去や制限については、アジア連盟では反対が多い。

#### 4. アジア連盟副会長欠員選挙

副会長ポスト欠員選挙 2名の候補者がいたが、イランの候補が辞退した為選挙なしにインドの候補者 (Dr. HIMANTA氏) が当選。任期は2019年5月まで。

前日17日のBWFのメンバーズフォーラムで、新スコアリングシステム他ルール改正についてのパネルdiscussionがあり、5大陸代表のBWF理事だけによるものであり、すべて賛成キャンペーンの印象が強く不評を買っていた。17日の夕刻再びアジアの有志国が参集し作戦を討議した。この会合には新スコアリングシステム賛成派のアジア連盟の会長 (INA)、専務理事 (韓国) も参加した。主なメンバー国は反対派の日本、韓国、インドネシア、マレーシア、Badminton Asiaのスタッフ等。おそらく、台湾は反対、タイ、中国は賛成派にまわるだろうとのことであった。

#### **BWF総会、午前10時開会、**

エリックBWF会長からの所信表明挨拶の後、各委員会よりの事業報告がなされ、ランチタイムを挟み長時間にわたりなされた。結果として肝心の議題に関する討議は昼食後3時前頃より始まり、終了したのが5時過ぎであった。

#### **議題1. NEWスコアリングシステム案について**

まず、ヨーロッパの国よりの賛成意見発表に始まり、反対意見はマレーシア、日本、インドネシア、台湾、韓国、ガティマラ、アルジェリア、パキスタン、ミャンマーの順に反対意見を述べ、スロベニア、パキスタン、フランス、デンマーク、イングランド、ウェールズ等が賛成意見を述べた。約20名近くの各国のメンバーがマイクを持ったことになり大変長い時間を要しての討議であった。最終的に投票となり、

(日本の近藤繁国際部長が選挙管理委員会の委員として選出された)

(他の案件は投票ではなく、賛否についてカードを上げるだけであった) 結局、有効投票総数252票の内、賛成129、反対123であったが、規約改正には三分の二の票数が必要なので、結局自動的に本案は否決された。この結果、2020東京オリンピック終了まで現行のスコアリングシステム継続となった。関連してチェンジ・エンド、プレーの継続、タイムアウト、コーチに関連する制限などの条項は取り下げられた。

**2つ目の議題である1.15mのサーブの高さ固定案**については、有効投票数222票のうち、賛成177、反対45で可決された。これはカードによる賛否であった。本案はアジア連盟としても、日本としても当初より賛成であった。ただし、この案は当面12月10日前までに試験的施行を国際大会で行い、もし、内容や器具等に著しい不備や不評があった場合は12月10日時点でBWF理事会により再検討するというものであった。もし、なにも問題提起されない場合は、本件は12月10日より正式施行となる。その他のITTO (公認審判員規程)、Vocabulary (審判用語)、パラバドミントンの追加規程、IRS (チャレンジ) など、一括して賛成多数により可決された。



その後、各担当部署から色々な発表がなされた中で、日本の近藤繁2020東京オリンピック・パラリンピック担当マネジャーから東京オリンピック・パラリンピックのプレゼンテーションがVTR映像を活用して発表がなされた。大変素晴らしい内容で感動した。

### 最後に…

出張させて頂きましたアジア選手権大会では2つの金メダル、2つの銀メダルを私の目の前で獲得してくれた。また、タイ・バンコクでのBWF, BadmintonAsiaの理事会総会時の、ユーバー杯で37年ぶりの優勝、トマス杯も堂々の準優勝等、日本選手の大活躍のお蔭で、私は誇りをもってアジア、世界のメンバーの中で交誼、議論することができます。ここに私は、(公財)日本バドミントン協会銭谷専務理事、選手強化本部役員、日本ナショナルチームの全コーチ、全選手の皆様に心よりお礼を申し上げたいと思います。



